

H.C.R. 2007 ビジュアルデザイン



銀杏の葉が秋の訪れを告げる都会の公園。
ファミリーの団欒を見守るスズメたちのさえずりが
空の五線譜を揺らします。
赤トンボとたわむれ、ひとひらづつ舞い落ちる黄葉には、
天からの幸せメッセージが込められているようです。



柳沢 京子

信州大学教育学部卒
きりえアーティスト

信州に生き、「地球小紋」とも言えるメッセージを創作して40数年になるきりえ作家です。かつて西ドイツでは「刀で刻む詩」と称されました。

江戸小紋の人間国宝小宮康孝師匠は「狂言衣装」につながる感性だと言い、その伝統渋紙の提供に尽力しつつ、その渋紙に思いの丈を刻んで創る「きりえ」です。

その生き方も常に前向き爽快であり、俳句に通ずる省略の美術「きりえ」が重なります。ゆび先から刻まれるリズムが観るものに心地よさを伝えてくれます。

略 歴

- 1984年 船橋西武美術館で個展。
- 1986年 朝日新聞木曜版マリオンにきりえと詩を連載。出版、全国巡回展。西ドイツ13都市巡回展。
- 1996年 その詩が全国合唱連盟の課題曲になる。
- 1997年 渋谷Bunkamura個展
合唱組曲「千曲川讃歌」の作詩担当。作曲は三枝成彰さん。
- 1998年 長野オリンピックにおいて、コカ・コーラ社の選手、役員へのプレゼント版画の作成を担当する。
- 1999年 ニューヨーク個展
- 2003年 六本木AXSIS個展
- 2007年 日本橋高島屋個展

2007年度の国際ロザリー・ウルフ 記念賞の受賞者は、 日本の多々良紀夫氏に決定！



高齢者虐待防止国際ネットワーク (INPEA) は、2007年度の国際ロザリー・ウルフ記念賞の受賞者を日本の多々良紀夫氏 (淑徳大学教授、保健福祉広報協会評議員) に決定したことを発表いたしました。

INPEAは、高齢者虐待を社会問題であると位置づけ、国際的な協力によって高齢者虐待を予防するための社会の力を目的とする国際ネットワーク組織であり、国連の助言機関として世界保健機構 (WHO) や国連非政府組織高齢化委員会 (UN NGO Committee on Aging) に対して、世界の高齢者虐待問題の対応に関する助言をしています。そして国際ロザリー・ウルフ記念賞は、その年に世界で最も活躍した高齢者虐待を専門とする研究者に与えられる賞です。

受賞した多々良紀夫氏は、アメリカ公的福祉協会 (APWA) 研究調査部の部長時代の21年間 (このうち10年間は米国高齢者問題研究所の初代所長を務める) と、淑徳大学における9年間を含む合計30年間余にわたって世界的な規模で福祉の問題や高齢者虐待の研究に取り組まれてきました。日米で数多くの著書、学術論文、研究報告書の実績があり、多くの研究者や実践者を指導し、育ててこられたことが、今回の受賞に繋がったと考えられます。

これまでの 受賞者

ロンドン医科大学教授	故Gerry Bennett医学博士	英国
INPEA現世界会長	Lia S. Daichman医学博士	アルゼンチン
元国際老年学会 (IAG) 会長	Gloria Gutman老年学博士	カナダ
WHO現高齢者問題担当部長	Alexandre Kalache医学博士、疫学博士	ブラジル
以上の4人		

第34回国際福祉機器展H.C.R.2007までのご案内



- りんかい線 国際展示場駅下車 徒歩7分
埼京線直通 大崎駅より13分、新木場駅より5分
- ゆりかもめ 国際展示場正門駅下車 徒歩3分
新橋駅より22分
- 水上バス 有明客船ターミナル下車 徒歩2分
日の出栈橋より25分
- 路線バス 東京ビッグサイト下車すぐ
東京駅八重洲口より35分、浜松町駅より30分、羽田空港駅より25分

※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。駐車場には限りがあるため、車いす利用者等歩行が困難な方を優先してご案内いたします。